

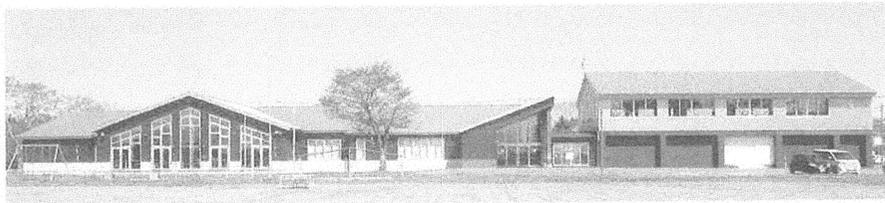
令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：釧路地区
- 2 事例報告学校名：標茶町立磯分内小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 沼田 卓二
- 4 キーワード：つなぐ（継承）・つながる（連携）・つなげる（充実・深化）

1 はじめに

本校は、全校児童21人、5学級（特別支援学級2学級を含む）からなる極小規模校であり、地域とともに歩みながら、令和7年度に開校107年を迎えた。校区の磯分内地区は、釧路湿原に隣接する自然豊かな酪農地帯であり、大手乳製品メーカーの製造工場も立地している。保護者の多くが酪農に従事し、地域の産業と自然に支えられた教育環境が形成されている。

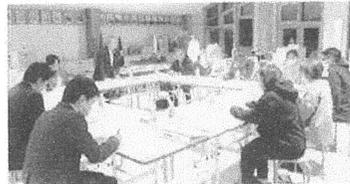
近年は、少子化やコロナ禍の影響により、地域との関わりが希薄化しつつあるが、町及び関係機関の支援を受け、特色ある取組を教育課程に位置付け、地域と連携して教育活動を推進している。



2 地域の知恵を子どもたちの「学び」につなぐ

本校では、令和6年度よりコミュニティ・スクール(CS)を導入した。令和7年度第1回会議では、地域人材の知恵や技術（昔遊びや餅つき等）を、子どもたちの主体的な「学び」にどのようにつなげるかを協議した。

会議では、地域伝統である「熊牛太鼓」の継承も議題となり、委員からは学習発表会での演奏指導への協力や「太鼓体験会」の実施など、具体的な提案が示された。



子どもたちの「学び」を協議
【第1回CS会議（6月3日）】

3 実践の概要 ～ 地域を学び舎とし、未来の創り手を育む ～

(1) 地域文化の継承 ～ 「熊牛太鼓」で伝統をつなぐ～

① 地域の伝統を学校でつなぐ

熊牛太鼓は、昭和44年に地元の子どもたちが樽太鼓を練習したことに始まる。以前は道内各地に招かれて演奏する機会もあったが、現在は本校が継承し、学習発表会や地区文化祭で演奏を続けている。

② 地域で力を継承する

令和7年度は、CSの取組として委員が指導者となり、子どもたちへの演奏指導と「太鼓体験会」を実施。この取組を契機に、地域に太鼓の響きが広がり、伝統を次代へ継承する基盤が形成されている。



未来へつなぐ 太鼓の響き
【学習発表会（10月18日）】

(2) 地域資源を生かした教育連携 ～ 町・地域とつながる ～

① 町と一体となった「ふるさと教育」

標茶町では「ふるさと教育」を推進しており、小学生の釧路川でのカヌー体験や、令和7年度から始まった「馬と触れ合う体験学習」など、地域の特色を生かした取組を実施している。これらの活動により、子どもたちは町の自然や文化を肌で感じ、ふるさとへの愛情と誇りを着実に深めてきている。



標茶町の馬文化を体感する
【馬と触れ合う体験学習（9月17日）】

② 磯分内の産業と連携した「キャリア教育」

本校では、産業体験として、地域の乳製品工場や牧場での学習活動を行っている。これらの取組を通して、子どもたちは磯分内の産業を支える人々の努力と働くことの意義を理解し始めている。

③ 標茶高校と連携した「食育」

標茶町では、食育の一環として、町内の小学校1・2年生が標茶高校の農園で除草や収穫体験を行っている。収穫した食材は、給食の「標茶高校カレー」として提供される。この取組を通して、子どもたちは食材の流れを学び、食への関心と感謝の心を培っている。

(3) 「連携・協働」の充実・深化 ～ 多様な社会を「学び」につなげる ～

① 地域の専門家とつながる「生活・社会の学び」

本校では、地域の専門家を招き、生活や社会に関わる「学び」を充実させている。図書館職員による読み聞かせ、栄養教諭の食育講座、釧路税務署の租税教室などを実施し、子どもたちは読書の楽しさや社会で生きる知識を主体的に学んでいる。



子どもたちの「学び」を協議
【第1回CS会議（6月3日）】

② 地域社会の仕組みに学ぶ「体験活動」

本校では、地域施設や公共機関と連携し、学年の発達段階に応じた地域に根ざした「学び」の体験活動を計画的に実施している。消防署や役場の見学、警察との安全教室などを通じて、子どもたちは社会の仕組みや安全を守る人々の働きを理解し、地域社会で生きる力と支え合う心を着実に身に付けている。

③ 地域との連携・協働による「文化活動」

公民館事業「夏休み子ども陶芸教室」では、磯分内陶芸同好会の協力を得て、子どもたちが陶芸作品を制作し、地区文化祭に出展している。地域住民との協働を通して、子どもたちは地域とのつながりを実感し、地域社会の一員としての自覚と責任感を高めている。

4 おわりに

未来の創り手育成のため、町及び関係機関の支援のもと、地域文化の継承、地域資源の活用、協働体制の充実を柱として教育活動を推進してきた。令和7年度の児童アンケートでは「ふるさとへの愛情や自覚」の項目が4段階評価で3.9となり、実践の成果が明確に示された。

今後は、児童数減少が進む中においても、学校と地域が一体となって「学び」を支える体制を更に充実・深化させるとともに、本校で培った教育成果と地域協働の価値を、地域内外に積極的に発信していく。これこそが、磯分内小学校に課せられた重要な使命だと考えている。